

徳島県流域コウノトリ・ツルの舞う生態系ネットワーク

徳島県流域コウノトリ・ツルの舞う生態系ネットワーク推進協議会

- 四国では、コウノトリ・ツル類を広域指標として「四国圏域生態系ネットワーク推進協議会」が設立され、生態系ネットワークの形成による「魅力的な四国づくり」の実現に向けて、取組が進められている。
- 吉野川流域では、2017年10月に「吉野川流域コウノトリ・ツルの舞う生態系ネットワーク推進協議会」を設立し、取組を推進してきた。コウノトリ・ツル類が徳島県内に広く飛来していること、また、徳島県全域で環境保全への機運が高まっていることから、徳島県内での関連する取組の情報共有・連携を図ることを目的に、2021年1月に、吉野川流域から徳島県全域を対象とした「徳島県流域コウノトリ・ツルの舞う生態系ネットワーク推進協議会」へと発展移行した。

徳島県流域コウノトリ・ツルの舞う生態系ネットワーク形成の目的

- 1 コウノトリ・ツル類を指標とした河川と取り巻く地域が一体となった自然環境の保全・再生による生態系ネットワークの形成
- 2 コウノトリ・ツル類を指標とした生態系ネットワークの形成を通じた地域活性化及び経済振興の実現

「徳島県流域コウノトリ・ツルの舞う生態系ネットワーク全体構想」（2021年1月）

			2017年度 (平成29年度)	2018年度 (平成30年度)	2019年度 (令和元年度)	2020年度 (令和2年度)	2021年度 (令和3年度)	2022年度 (令和4年度)	2023年度 (令和5年度)	2024年度 (令和6年度)
圏域／流域の空間スケールに応じた生態系ネットワークの形成	四国圏域	四国圏域生態系ネットワーク推進協議会 【2018年2月5日設立】	四国圏域の全体構想の検討・策定、圏域での取組状況等の共有・発信 ・第1回協議会			・新型コロナウイルス感染症の影響により延期 ・第4回協議会（書面開催）		・第5回協議会	・第6回協議会	・第7回協議会
		徳島県流域コウノトリ・ツルの舞う生態系ネットワーク推進協議会 【2021年1月15日発展移行】	全体構想の検討・策定、流域での取組状況等の共有・発信 ・第1回協議会			全体構想の検討・策定、流域での取組状況等の共有・発信 ・第1回協議会 吉野川流域→徳島県全体へ発展移行		・第2回協議会（書面開催）	・第3回協議会	・第4回協議会
	吉野川流域→徳島県全体	鳴門地区生息環境づくりワーキング 【2018年11月27日設置】 【2023年1月10日解散】		旧吉野川での自然再生によるコウノトリの生息環境づくりの検討 ・第1～2回会議		・第3～4回会議	・第5～6回会議	・第7～8回会議		
		旧吉野川津慈地区管理運営あり方検討ワーキング 【2023年6月6日設置】 【2023年11月16日～休止】						旧吉野川の自然再生地の管理運営の検討 ・第1～3回会議		
		旧吉野川津慈地区湿地環境づくりワーキング 【2024年1月31日設置】						旧吉野川の自然再生地の整備・利活用の検討 ・第1回会議		
		鳴門地区地域・人づくりワーキング 【2019年9月30日設置】			コウノトリ営巣地周辺での地域・人づくりの検討 ・第1～2回会議		・第3～4回会議	・第5～6回会議	・第7～8回会議	・第9回会議

指標種・シンボルとしてのコウノトリ・ツル類

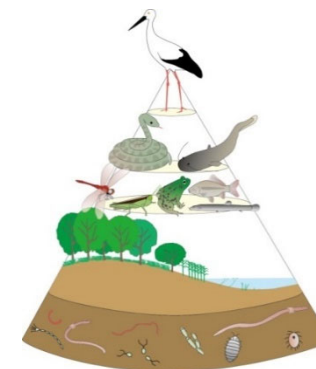
- 徳島県流域において、様々な主体が連携して生態系ネットワークの形成を進めるために、コウノトリ・ツル類（ナベヅル・マナヅル）を広域的な指標種・シンボルに設定している。

①多様で豊かな生きものと自然環境のシンボル

コウノトリ・ツル類は、里地里山や河川の生態ピラミッドの頂点に立つ、高次消費者である。コウノトリやツル類が、その地域に生息することは、食物となる多くの生きものが育まれる豊かな自然環境がある証であり、生態系サービスの質が高いことを意味する。

②自然と共生する社会のシンボル

コウノトリ・ツル類は大型の鳥類で、美しくよく目立つことから、取組の効果を実感しやすい生きものである。また、地域の人々の関心や支持を集めやすく、行動を引き出すことにつながる。コウノトリ・ツル類がくらしているという物語を付加価値とする生産物の販売や観光の推進、地域の交流人口の増加といった社会や経済の活性化への効果も期待できる。



- コウノトリは、日本国内で一度絶滅したが、保護増殖と放鳥が進められ、国内の野外個体数は、2024年に400羽を超え、繁殖地も増加している。一方で、人為的要因による事故も増えており、対策が必要となっている。ツル類は、鹿児島県出水市に一極集中して越冬しており、大量死を招くリスクがあることから、新たな越冬地の形成に向けた取組が必要になっている。

日本国内のコウノトリの生息の現況



◇1971年に日本の野生コウノトリは絶滅したが、その後、兵庫県豊岡市でコウノトリの保護増殖と放鳥が進められた。現在、国内の野外コウノトリは順調に増加が見られ、2024年に400羽を超えている。国内繁殖地も拡がりが見られ、2024年には、全国14府県51巣（四国では徳島県鳴門市1巣、香川県まんのう町1巣）から134個体の幼鳥が巣立った。

◇コウノトリの野外個体数が増加する一方で、防獣ネットや防鳥用テグスへの絡まり、送電線での感電など、事故に遭い死亡したり、救護されたりするケースも増えてきている。

日本国内のツル類（ナベヅル・マナヅル）の生息の現況



◇かつては日本国内の各地にナベヅル・マナヅルの越冬地があったが、その多くは消滅している。鹿児島県出水地方では、保護区の設置、給餌等の長年の努力により、1万羽以上のナベヅル・マナヅル等のツル類が越冬している。今期も10,928羽のツル類が出水市内へ渡来している（2024年12月21日時点）。

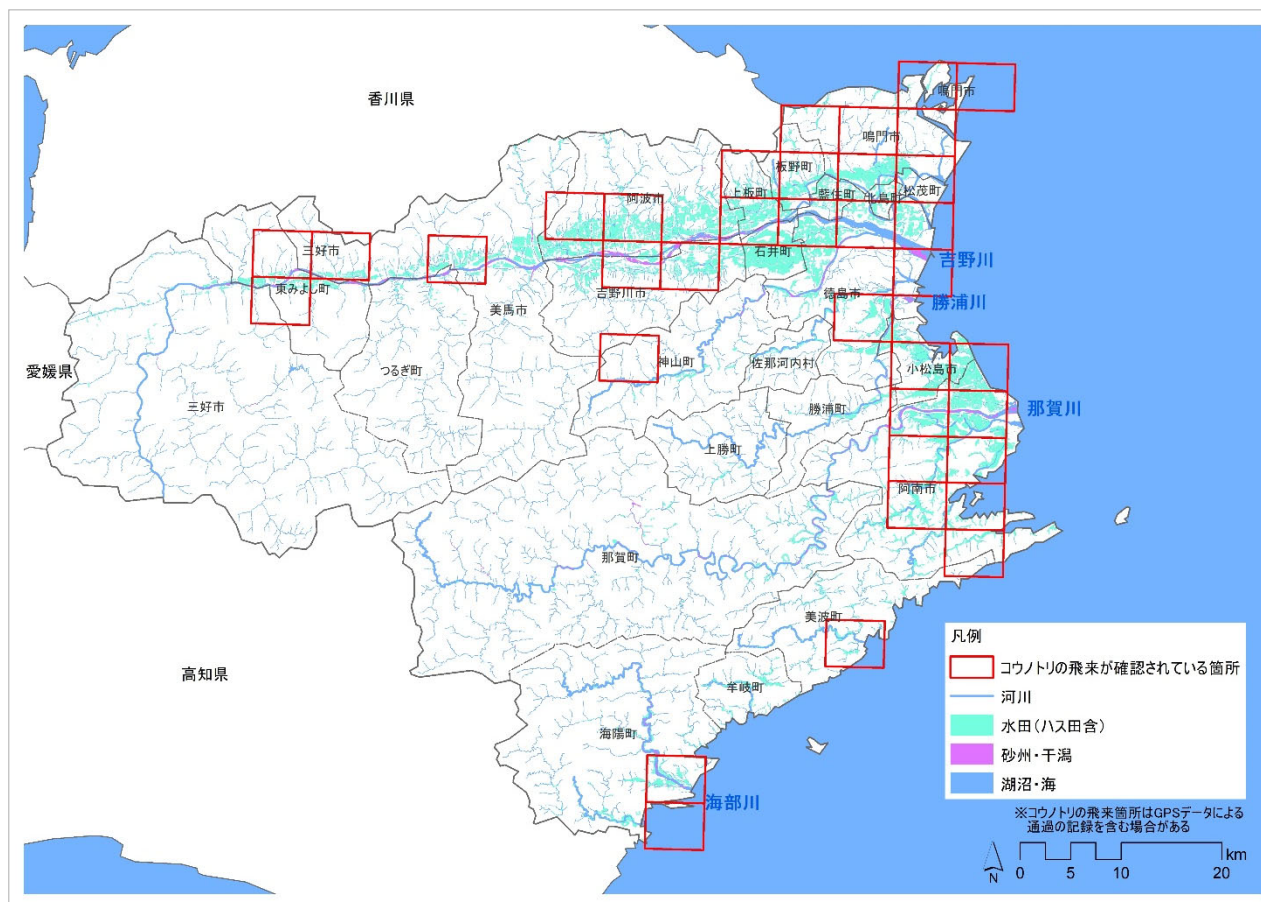
◇出水市でのツル類の集中は、感染症等の発生時に大量死を招くリスクがある。2022年度には、ツル類が高病原性鳥インフルエンザに感染し、1,500羽以上が死亡・衰弱し回収・収容された。環境省、鹿児島県及び出水市は、ツル類の分散化を図る一手段として、出水での給餌量を段階的に削減・調整する取組を2020年度より行っている。

徳島県でのコウノトリの飛来・生息状況（2000年1月～2024年12月）

- 徳島県では、2015年頃からコウノトリの飛来が増え、特に吉野川周辺や那賀川周辺で確認されている。吉野川流域の鳴門市において、コウノトリ1ペアが2017年から8年連続で繁殖に成功している。

徳島県内での繁殖状況

- ・ 鳴門市へ2015年2月にコウノトリ2羽が飛来し、4月に巣づくりを始めたものの産卵には至らず、2016年は産卵したものの抱卵が放棄された。2017年に、兵庫県豊岡市周辺以外では初めて野外繁殖に成功し、3羽が巣立った。このペアは「鳴門板東ペア」と呼ばれ、2018年に2羽、2019年～2023年の各年に3羽、2024年に4羽のひなを巣立たせている。



徳島県でのコウノトリの飛来・生息箇所（2000年1月～2024年12月までの情報をもとに整理）

「国土数値情報(行政区域データ)」、(河川ラインデータ)「(国土交通省)」、「1/25,000植生図GISデータ」(環境省生物多様性センター) をもとに作成

徳島県でのコウノトリの飛来・生息状況（2024年1月～2024年12月）

希少種情報につき取り扱い注意

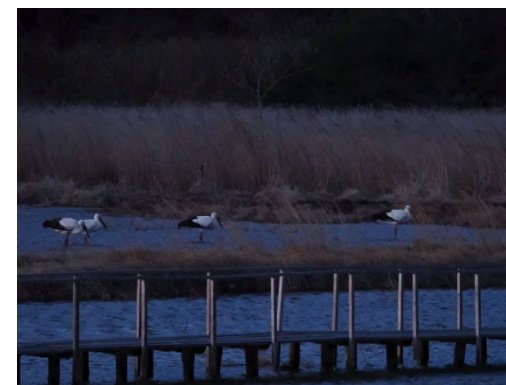
- 2024年1月～2024年12月に、徳島県内では、吉野川周辺でコウノトリの飛来があり、1年を通して、県内で過去最多となる180羽の飛来が確認された。また、鳴門市大麻町で営巣している「鳴門板東ペア」は、8年連続で繁殖に成功した。一方で、県内でコウノトリの負傷による死亡事例が確認されている。
- 日本国内では、野外のコウノトリが463羽（2024年11月30日時点）となっており、全国的に見て、徳島県内には多数のコウノトリが飛来している。

コウノトリの飛来・生息状況

- ・ 鳴門市大麻町・大津町と松茂町を中心に、徳島市、鳴門市、松茂町、北島町、板野町でコウノトリの飛来が確認された。
- ・ 2024年12月28日には、鳴門市大津町のねぐらで51羽のコウノトリが確認された。
- ・ 「認定NPO法人とくしまコウノトリ基金」等により整備・維持管理されている鳴門市大麻町や瀬戸町の島田島のビオトープにおいて、コウノトリの飛来が確認された。島田島のビオトープでは、最大8羽の飛来が確認された。
- ・ 鳴門市大麻町で営巣している「鳴門板東ペア」は、8年連続で繁殖に成功し、6月に4羽のひなが巣立った。ひなには、鳴門市大津西小学校の児童からの募集により「幸（こう）」「陽（よう）」「凧（なぎ）」「結（ゆう）」の愛称がつけられた。

コウノトリの死亡に関する状況

- ・ 2024年2月1日に、鳴門市で、左脚を骨折したコウノトリ1羽が保護された。翌日に県の「コウノトリ一時保護施設」で検査が行われた後、とくしま動物園で治療が施されたが、2月14日に死亡が確認された。
- ・ 2024年3月25日に、鳴門市で、水路から出られなくなったコウノトリ1羽の死亡が確認された。
- ・ 2024年11月6日に、鳴門市大麻町の送電用鉄塔の中段で、コウノトリ1羽の死亡が確認された。



島田島のビオトープに
飛来したコウノトリ

[写真提供：認定NPO法人とくしまコウノトリ基金]



鳴門市大津町のねぐらで確認されたコウノトリ51羽

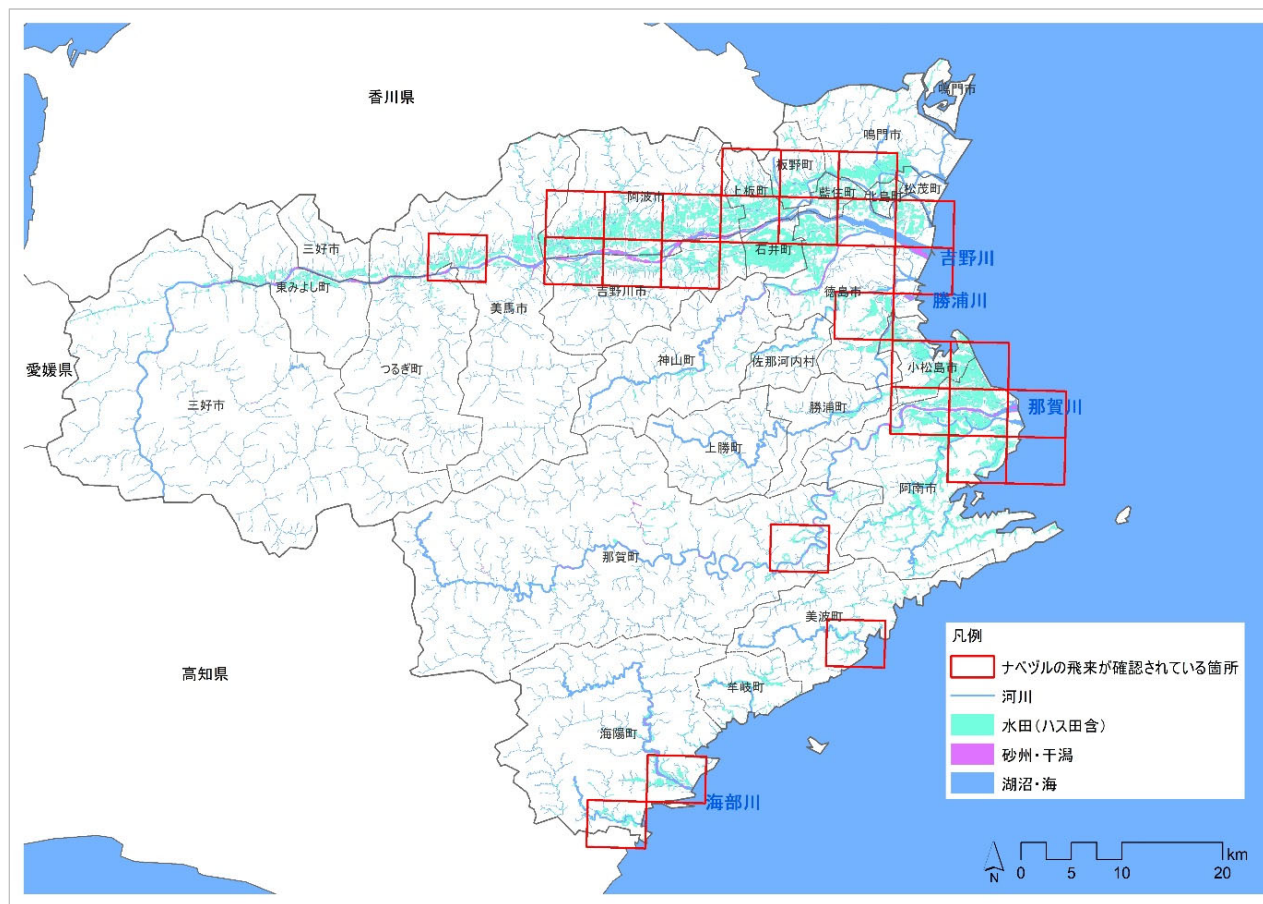
[写真提供：認定NPO法人とくしまコウノトリ基金]

徳島県でのツル類の飛来・生息状況（2000年1月～2024年12月）

- 徳島県では、主にナベヅルが飛来している。吉野川、那賀川、海部川の砂州や干潟の浅瀬をねぐらとして利用し、周辺の農地で落穂や二番穂等を採食していることが確認されている。2017年度以降、すべての年度で県内へのナベヅルの飛来があったが、今期は、県内へのツル類の飛来が確認されていない（2024年12月時点）。

徳島県内での越冬状況（1月中旬の10日間の滞在の記録を越冬としている。）

- ・ 徳島県内では、ナベヅルの飛来が確認されているものの、安定した越冬には至っていない。近年は、2020年度に吉野川周辺で8羽、2023年度に那賀川周辺で6羽のナベヅルの越冬が確認されている。2017年度～2019年度、2021年度～2022年度は、各年度にナベヅルの飛来が確認されたが、越冬することはできなかった。

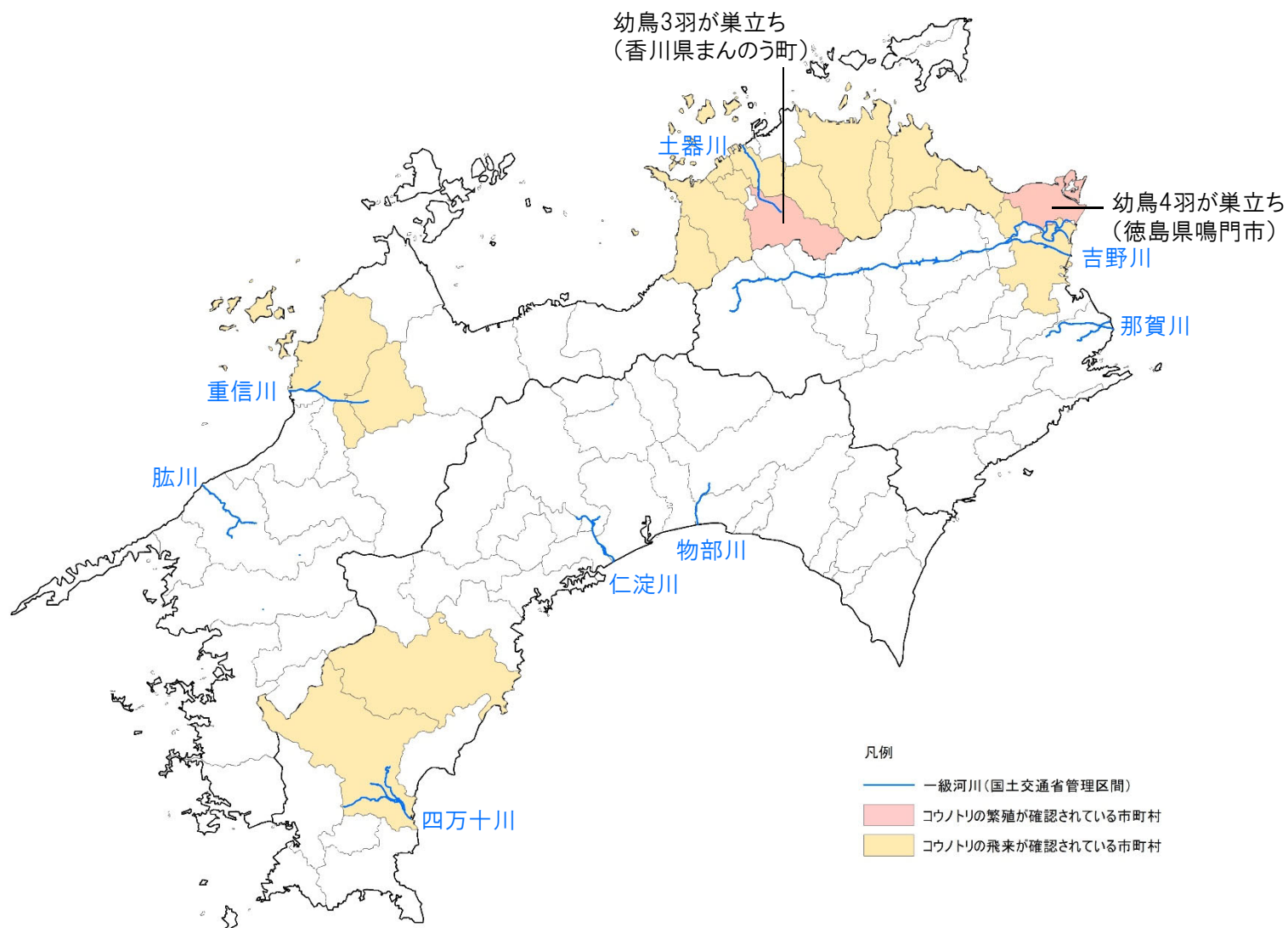


徳島県でのツル類の飛来・生息箇所（2000年1月～2024年12月までの情報をもとに整理）

「国土数値情報(行政区域データ)、(河川ラインデータ)」「国土交通省」、「1/25,000植生図GISデータ」(環境省生物多様性センター) をもとに作成

(参考) 四国におけるコウノトリの飛来・繁殖の状況 (2024年1月～2024年12月)

- 2024年に、四国では各県へのコウノトリの飛来があり、特に吉野川周辺と香川県内のため池で多くの飛来が確認された。また、徳島県鳴門市と香川県まんのう町でコウノトリが繁殖に成功した。まんのう町では2023年から2年連続でコウノトリ1ペアが繁殖に成功し、2024年7月に3羽の巣立ちが確認された。

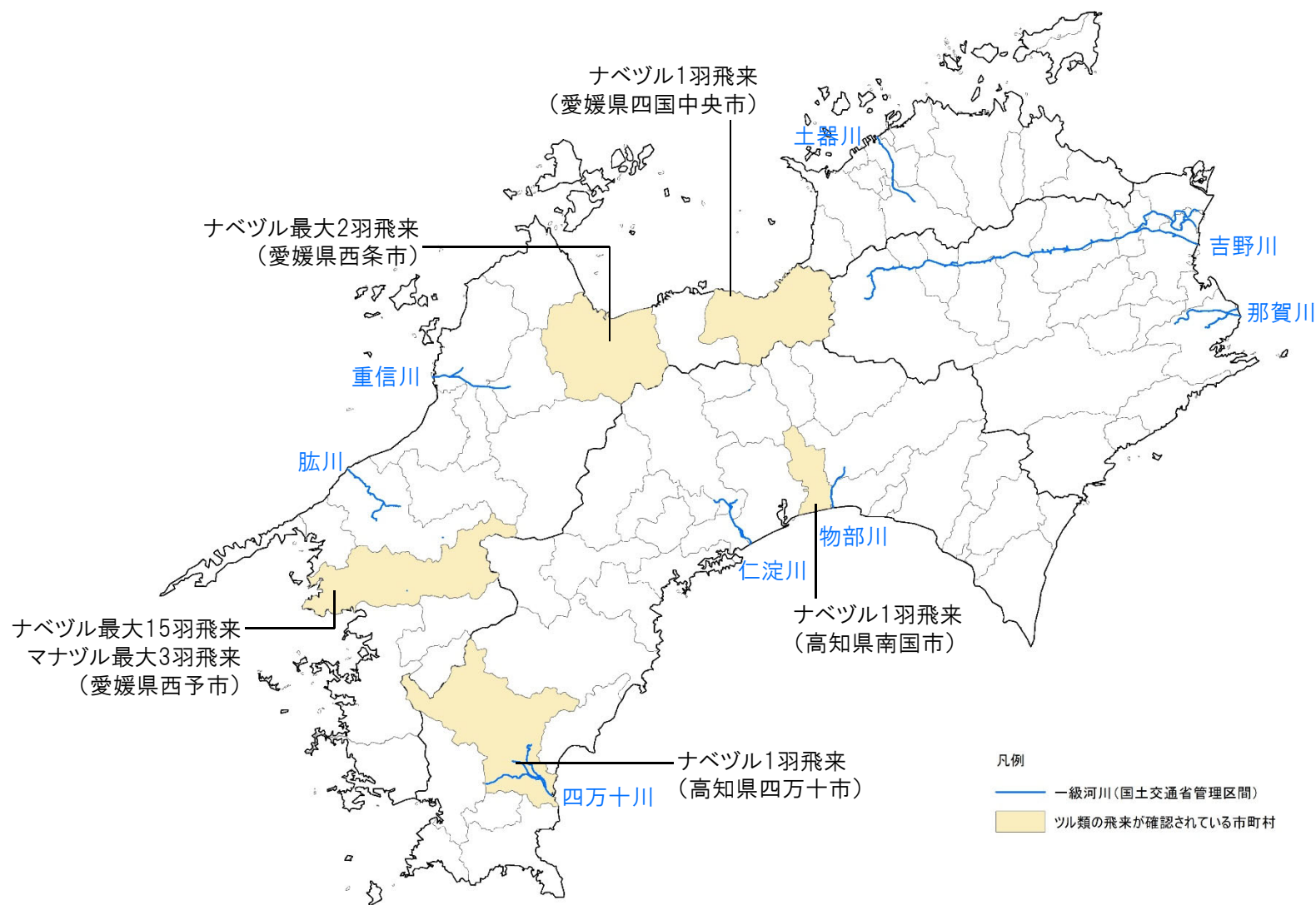


四国におけるコウノトリの飛来・繁殖の状況 (2024年1月1日～2024年12月31日)

「国土数値情報(行政区域データ)、(河川ラインデータ)」(国土交通省)をもとに作成

（参考）四国におけるツル類の飛来状況（2024年10月～2024年12月）

- 今期（2024年10月～2024年12月）は、四国において、愛媛県西条市、四国中央市、西予市、高知県南国市、四万十市でツル類（ナベヅル・マナヅル）の飛来が確認されている。



四国におけるツル類の飛来状況（2024年10月1日～2024年12月31日）

「国土数値情報（行政区域データ）、（河川ラインデータ）」（国土交通省）をもとに作成